

公共交通

空白地域にバスの運行を

年明けに川奥、市野々川は
試験運行開始／総務課長



議員
伊都子 山下

が利用しやすく、家計に大きな負担を掛けないことだが、この点を基準にした料金設定が大事だ。総合計画の概要に基づいた、計画はいつごろになるのか聞く。

答

松田 総務課長

地域の公共交通を考えるアンケートが昨年実施された。回収率が低く、校下ごとの説明会にも出席者が少なかった。

地域公共交通総合連携計画の概要版も出が、その後、どのように進んでいるのか聞く。また、バスが通っていない地域で生活している声をどう反映させるのか。

現在の公共交通では料金が高く、利用ができないという声がある。料金設定の考え方の基準は、高齢者や障がい者

総合計画は現在の公共交通を有効に活用することを基本に考えている。今年から3年間の計画で実施する予定。川奥、市野々川の空白地域の取り組みは、年明けには試験運行に入りたい。料金設定は町が交通会社に補助金を出しており、妥当な料金だと判断している。

問

孤独なお年寄りの見守りを

福祉計画を策定し充実を図る／町長

高齢者対策

が年間37万円の補助金を出しているが利用者は年間1858人いる。昼食を作ってくださるボランティアさん達は宅老所に来る年齢になっていく人もいます。

頑張っている施設にももう少し補助すべきではないか。

答

大西町長

矢野 健康福祉課長

見守りネットの輪を広げるために、民生委員の代表と協議をして早い時期にネットワークの拡充を図っていく。23年度策定予定の地域福祉計画の中で宅老所などの取り組みを進めていきたい。大方地域の「よりあい」は今後継続して活動していただくためにも補助金と言う形が適正かどうか。機能強化について協議している。



地域のために頑張る宅老所よりあい